

# あいさつ

## 住民主役のまちづくり



中泊町長  
小野 俊逸

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様方には、新たな希望を胸に新年を迎えられたことと存じます。

さて、昨年を振り返ってみますと、中泊町にとって歴史に刻まれる1年でありました。3月28日に旧中里町と旧小泊村が合併して中泊町が誕生し、私は町民皆様からの信任を頂き、初代町長に就任いたしました。7月にはパルナスにおいて中泊町誕生記念式典を開催できましたことを心より感謝申し上げます。

中泊町誕生以来、中里・小泊両地域の一体感を図るべく、7月より小泊・中里間を一日2往復する「中泊町地域連絡バス」の運行を開始し、多くの町民の皆様にご利用いただいております。8月のなかどまりまつり、11月の町民祭では、中里会場に小泊の方が、小泊会場に中里の方がというようにお互いの交流も見られました。また、10月に運動公園で行われた町民大運動会には中里18チームに加え小泊

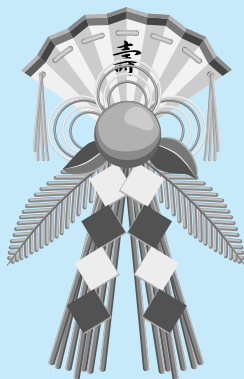
からも4チームの参加がありました。今後はさらに参加者が増えるよう期待します。

昨年は災害の年でもありました。1月には豪雪対策本部を設置するほどの豪雪となり、町民の皆様も苦勞されたと思います。小泊地域では、8月の後半に二度、そして9月18日と、豪雨による床下浸水や土砂崩れなどの被害がありました。自然の厳しさ、防災体制の重要性を痛感させられました。被災箇所につきましては県や国と協力しながら、一刻も早く復旧するよう進めております。また、2月に起きた座礁船問題に関しましては県や国と協議しながら、木材撤去、船体撤去の早期解決を目指しております。

町では現在、合併協議で策定した「新町建設計画」を基本とした新たな「まちづくりの計画」を策定しており、今年3月に完成する予定です。これからのまちづくりの方向を明らかにし、行政と町民が一体となって進む

未来への「道しるべ」として位置づけ、財政等に留意しながらこの計画を実現するため努力してまいります。さらに各種住民総参加型イベント、現在工事が進められている地域イントラネットの整備、来年度予定されている防犯行政無線の整備等の事業を展開して、地域の交流・心のふれあい・情報の共有化等を図り、住民主役のまちづくりを進めていきたいと考えています。

今後の町政運営に一層のご理解・ご協力をお願いするとともに、町民の皆様のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げ新年のあいさつとします。





中泊町議会議長  
外崎 義春

# 新年の

## 町民の皆様とともに 新しいまちづくり

新年あけましておめでとうございませう。

町民の皆様には、希望に満ちた新年を健やかに迎えのことに心よりお慶び申し上げます。

昨年4月の町村合併後の臨時議会におきまして、議員各位のご推挙により議長の要職に就かせていただくことになりました。就任以来、町民の皆様はじめ各位のご指導とご協力を賜りながら町政の進展と円滑な議会運営に微力をささげてまいりましたが、おかげさまでましまして大過なく新年を迎えることができましたことを心から厚くお礼申し上げます。

昨年は、中里町と小泊村が町村合併し中泊町が誕生した記念すべき年でしたが、これから数年は新しい町の基盤づくりの期間であり、特に今年には本町の基幹産業である農林水産業の振興発展をはじめ商工業や観光、さらには教育環境の整備、高齢化時代や情報化社会への対応など将来の町の基本方針を示す長期

振興計画が策定されることから、大変重要な年であると考えています。

また、地方分権が進むなか、地方自治体の自主性がますます強まり、議会の果たすべき役割と責任は大きく増大するものと考えています。

こうした状況を踏まえ、私たち議員も新町にとって何が必要なのかを的確に判断し、町理事者と十分な意思疎通を図りながら、その任を果たして参りたいと思っております。

今後さらに多くの町民の皆様方と対話を重ね、意見を聴き、安心して暮らすことができ、生きがいの持てるまちづくりに取り組んで参りますので、どうか本年も相変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が町民の皆様にとって幸多き年でありますことを祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

### 今年も戌年

犬といえば、「知恵」「勇氣」「誠実」の代名詞のような動物。昔話の『桃太郎』や『花咲爺』に登場するのも、そういう犬たちです。主人が亡くなった後も毎日駅前待ち続けた「忠犬八千公」のお話は有名です。

このように、犬は昔から、人間の大切なパートナーであつたわけですが、今でも、狩猟犬や牧羊犬、盲導犬や警察犬、そして、災害が多い近年では、災害救助犬として、被災地などで活躍する場面を目にすることが多くなりました。

いろはガルタの一枚目は、「ご存じ、犬も歩けば棒に当たる」。辞書によると、「何か物事をしようとする者は、それだけに何かと災難に遭うことも多い」、あるいは、「たとえ才能や運がなくても、何かやっているうちには、思いもよらぬ幸運に会うこともある」という意味とも書かれています。

どちらの解釈をとるにしても、今年も、慎重な心配りのもとに、積極的な努力を惜しまず、開運間違いなし、といきたいものです。